

平成30年度 二宮高等学校 不祥事ゼロプログラム

二宮高等学校は、事故・不祥事の発生をゼロにすることを目的として、次のとおり「不祥事ゼロプログラム」を策定する。

1 実施責任者

二宮高等学校における「不祥事ゼロプログラム」の実施責任者は校長とし、副校長・教頭がこれを補佐する。

2 目標及び行動計画（グループ名は推進担当）

(1) 校務外非行の防止（法令遵守意識の向上）【必須事項】（管理職）

目標：職員の後期保持と服務規律の確保に努め、公務員として絶対に不祥事を起こさないという法令順守の意識と高い倫理観をもって職務に取り組む。

行動計画：

- (ア) 朝の打ち合わせや職員会議等で各種報道、資料等を活用し、具体的な事例を通して日常的に意識啓発、注意喚起に努める。
- (イ) 平成30年4月に全職員を対象とした管理職による不祥事防止会議を実施し、個々の職員のコンプライエンス（法令遵守）への認識を深める。

(2) わいせつ・セクハラ行為の防止【必須事項】（管理職）

目標：人権及び男女共同参画等を踏まえ、セクハラ・わいせつ行為を未然に防止する。

行動計画：

- (ア) 職員に携帯電話・電子メールの適切な使用、申請等を徹底する。
- (イ) 教科準備室等の適切な使用をさらに徹底する。
- (ウ) 職員だけでなく、生徒にもセクハラに対する意識付けを徹底し、学校全体としてセクハラ防止に努める。
- (エ) 不適切な言動に対して、職員間相互で注意できる人間関係を構築する。
- (オ) 平成30年10月に全職員を対象とした管理職による不祥事防止会議を実施し、個々の職員のセクハラ・わいせつ行為に対する認識を深める。

(3) 体罰、不適切な指導の防止【必須事項（県立学校）】（生徒支援グループ）

目標：生徒の人権を尊重し、「体罰防止ガイドライン」を遵守し、体罰・不適切指導を防止する。

行動計画：

- (ア) 「体罰防止ガイドライン」を活用した校内研修を実施し、教員間の共通認識を深める。
- (イ) 「校内研修ツール」のチェックシートやワークシートを使用することで、事故防止会議の効果を上げる。
- (ウ) 校内の生徒指導体制を見直し、複数の教員で生徒に対応するように配慮する。
- (エ) 部活動指導等に対して、教員同士が自由に意見交換できる関係を築く。
- (オ) 平成30年7月に全職員を対象とした生徒支援グループによる不祥事防止会議を実施し、個々の職員の体罰・不適切指導に対する認識を深める。

(4) 成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止【必須事項】

(情報管理グループ・進路支援グループ・学習支援グループ)

目標：成績処理や調査書作成等での事故やミスが起こらないよう複数チェック体制を構築するとと

もに、点検する自覚を持つ。

行動計画：

- (ア) 成績処理支援システム入力時の適切な操作及び複数による点検を徹底する。
- (イ) 調査書・通知表の作成、成績処理について校内マニュアルを整備し、職員の遵守を図る。
- (ウ) 時間的にゆとりを持って計画的に業務を行う。
- (エ) 平成30年6月に全職員を対象とした学習支援グループ、進路支援グループによる不祥事防止会議、平成31年3月に学習支援グループによる不祥事防止会議を実施し、個々の職員の調査書・通知表等の作成、成績処理に係る事故防止に対する認識を深める。

(5) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）

(情報管理グループ)

目標：個人情報の取り扱いについて最新の注意をはらうとともに、その流出を未然に防止する。

行動計画：

- (ア) パソコンや外部記憶媒体などでの個人情報の取扱いについて職員に徹底する。
- (イ) 個人情報持ち出しについて、管理簿による管理と校長の許可を徹底する。
- (ウ) 携帯電話の取り扱いに十分注意し、パスワードを設定し、個人情報保護を徹底する。
- (エ) 紙媒体の個人情報についても、所定の場所に施錠して保管する。
- (オ) 重要文書保存期間を適切に管理し、保存期限を過ぎた文書は適切かつすみやかに廃棄する。
- (カ) 平成30年5月に全職員を対象とした情報管理グループによる不祥事防止会議を実施し、個々の職員の個人情報等の管理、情報セキュリティに対する認識を深める。

(6) 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守（生活指導グループ）

目標：教育公務員としての自覚を持ち、交通法規を遵守する。

行動計画：

- (ア) 教育公務員としての自覚を職員に徹底するとともに、交通法規に対する認識を高める。
- (イ) 飲酒運転については、絶対にしないように注意を促すとともに飲酒後の対応の徹底を図る。
- (ウ) 平成30年11月に全職員を対象とした生活指導グループによる不祥事防止会議を実施し、個々の職員の交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守に対する認識を深める。

(7) 業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）（管理職）

目標：職員がお互いに積極的にコミュニケーションを図れる風通しのよい職場作りを行う。

行動計画：

- (ア) 「ほう・れん・そう」の徹底を図る。
- (イ) グループ会議、学年会、教科会を活用し、情報共有を図るとともに業務チェック体制を確立する。
- (ウ) 「業務マニュアル」を作成し、円滑な業務遂行と引継ぎを図る。
- (エ) 職員同士の声の掛け合い等コミュニケーションを積極的に行い、風通しの良い職場づくりに努める。
- (オ) 平成30年12月に全職員を対象とした管理職による不祥事防止会議を実施し、個々の職員の業務執行体制の確保に対する認識を深める。

(8) 会計事務等の適正執行（学校管理グループ）

目標：様式等を見直すとともに、経理に関する不適切な事務処理を防止する。

行動計画：

- (ア) 教員と事務職員、管理職の連携を密にし、執行体制を整える。
- (イ) 会計事務等の適正執行に係る通知等や基準を認識し、適正な経理処理に努める。
- (ウ) 平成 30 年 4 月に全職員を対象とした学校管理グループによる不祥事防止会議を実施し、個々の職員の会計事務の適正執行に対する認識を深める。

(9) 入学者選抜に係る事故防止（入選ワーキンググループ・管理職）

目標：入学者選抜業務に係るマニュアルや点検体制を整備し、不祥事防止を徹底する。

行動計画：

- (ア) 入学者選抜については、マニュアルや点検体制を整備し、全職員がその重要性を理解して事故防止を徹底する。
- (イ) 時間的に余裕をもって業務進行ができるように計画を立てる。
- (ウ) 平成 31 年 1 月に全職員を対象とした入選委員会による不祥事防止会議を実施し、個々の職員の入選における事故防止に対する認識を深める。

3 検証

本年度は 10 月に中間評価を行い必要に応じて執行体制の見直しを行う。併せて、3 月に本年度の各目標達成についての自己評価を行い、その結果を次年度のゼロプログラム策定に向けて生かす。